

授業科目名	老年看護学実習 I	担当教員名	教授 原 祥子 他		
開講年次及び学期	3年 後期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	135	単位数	3

授業概要

加齢や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢者を理解し、多様な場で障がいをもちながら生活している高齢者とその家族に必要な看護を査定し実践するための基礎的な能力を修得する。また、継続看護および他職種・他部門との連携の必要性とチームにおける看護職の役割を理解するとともに、看護職者としての倫理観や高齢者観を養う。

G I O (教育目標)

1. 加齢や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢者の個別性を理解する方法について学ぶ。
2. 療養生活をする高齢者とその家族に必要な援助について学ぶ。
3. 看護の継続性を考え、社会資源の活用や他職種との連携や協働について学ぶ。
4. 高齢者の尊厳を基盤とした援助について学ぶ。

S B O (到達目標)

1. 加齢や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢患者の個別性を身体的、精神・心理的、社会的、生活史の側面から説明できる。
 - 1) 加齢に伴う高齢者の一般的特徴を理解できる。
 - 2) 患者の生活史を理解したうえで、現在の身体的、精神・心理的、社会的状況について理解できる。
 - 3) 患者の加齢や疾病に伴う健康上の問題を把握できる。
2. 患者の心身の苦痛を理解するとともに、二次的障害のリスクを予測し、安全で安楽な療養生活を送れるように援助できる。
 - 1) 患者の心身の苦痛を理解できる。
 - 2) 患者の二次的障害のリスクを予測できる。
 - 3) 患者の心身の苦痛緩和や二次的障害を予防するために必要な看護計画の立案、実施、評価ができる。
3. 患者の自立と依存の欲求を理解し、その人に適した自立への援助ができる。
 - 1) 患者の自立と依存の欲求を理解できる。
 - 2) 自立に向けた看護計画の立案、実施、評価ができる。
4. 患者の家族が抱える問題と必要な援助について説明できる。
 - 1) 家族の状況および患者と家族との関係を把握できる。
 - 2) 患者や家族の言動の意味を捉え、家族が抱える問題を把握し、必要な看護計画を立案できる。
5. 継続看護の必要性を考察し、保健・医療・福祉の専門職者の連携や協働のあり方および看護者の役割を説明できる。
 - 1) 入院患者にかかわっている職種・部門を理解し、今後の生活を支えるために必要な社会資源の活用について説明できる。
 - 2) 他職種・他部門との連携・協働における看護者の役割について説明できる。
6. 高齢者の人権を保証し、倫理的配慮のある看護について説明できる。
 - 1) 倫理的ジレンマに気づき、その状況や背景要因を考え説明できる。
 - 2) 倫理的ジレンマを解決するための方法について説明できる。

成績評価の方法

実践内容、実習記録等の内容・提出状況、実習態度、カンファレンスへの参加状況、自己評価および実習指導者の意見などを総合して、担当教員が評価する。

教科書・参考書・視聴覚・その他の教材

授業計画

【実習場所】

島根大学医学部附属病院

【実習形態】

原則65歳以上の高齢患者を受け持ち、実習を行う。

		午 前	午 後
第1週	月	学内実習：実習オリエンテーション	病棟実習：病棟オリエンテーション 受け持ち患者の紹介
	火	病棟実習	病棟実習
	水	病棟実習	病棟実習
	木	病棟実習	学内実習：関連図&看護計画立案に向けての 合同検討会
	金	病棟実習	病棟実習
第2週	月	病棟実習	病棟実習 (*病棟カンファレンス；関連図を用いて検討)
	火	病棟実習	病棟実習 (*病棟カンファレンス；関連図を用いて検討)
	水	学内実習：看護計画・実践の整理	学内実習：ワークシートの合同検討会
	木	病棟実習	病棟実習
	金	病棟実習	病棟実習
第3週	月	病棟実習	病棟実習
	火	病棟実習	病棟実習
	水	病棟実習	病棟実習 (老年看護学実習まとめのカンファレンス)
	木	学内実習：実習のまとめ（記録、レポートの整理）	
	金	学内実習：実習のまとめ（記録、レポートの整理）、個人面接、記録の提出	
備 考			
・別に配布する「臨地実習の手引き」を参照のこと			